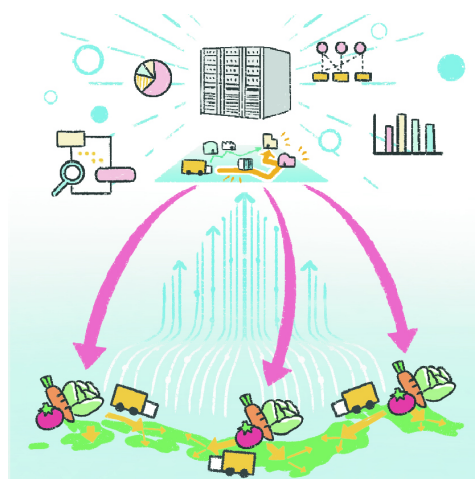




背景

現在の農産物流通は大市場への出荷集中や、需給アンバランスによる市場間の転送が起きていて、2024年問題への懸念もあり効率化が求められています。また多くの流通工程が紙や電話での対応で、データの可視化やノウハウのデジタル化による業務効率化も求められています。

成果の概要

全国の農産物流通に関わるデータを集約し、可視化、分析、予測を行うことで、出荷前に最適な需給マッチングと流通ルートを選定し、新しい農産物流通を実現します。そして、配送コストの削減、人手不足の解消、環境問題への貢献をめざします。

仮想市場

最先端のデジタル技術で分析・予測



最適な需給マッチングによる
 配送先、配送ルート

市場に集まる農産物の需給データを収集



技術のポイント

- データの可視化とマッチングノウハウのデジタル化技術
- マッチング結果を蓄積し学習することで需給マッチングを最適化する技術
- 将来は需要予測や流通経路の最適化による、より付加価値の高いマッチングを実現

この研究がもたらす未来

農産物の情報や担当者の経験やノウハウの蓄積と解析により、生産者から消費者までの農産物流通に関わる全ての人に価値のある、持続可能かつ安定供給できるフードサプライチェーンを実現します。

コラボレーションパートナー

株式会社神明ホールディングス、東京シティ青果株式会社、東果大阪株式会社

出展企業

日本電信電話株式会社

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com